

# VMware vRealize Business for Cloud

クラウドのコスト、使用量、比較、計画の管理を自動化

## 概要

VMware vRealize® Business™ for Cloud は、IT 部門のインフラストラクチャ チームや運用チームがクラウド環境の導入と管理を最も効率的に行ううえで必要となる詳細情報を提供します。vRealize Business for Cloud の、コスト、使用量、比較、および計画に関するさまざまな機能によって、クラウド コンピューティングの導入を容易に進めることができます。ハイブリッド クラウド環境の効果的な管理に欠かせない vRealize Business for Cloud のビジネス管理機能は、メリット実現までの時間も短縮します。

## 主なメリット

- 1つの画面でクラウドのコストを把握：プライベート、パブリック、およびハイブリッドクラウドの総コストを表示できます。
- クラウドコストの最適化：リソースの管理やソーシングなど、改善の余地がある部分を容易に特定できます。
- クラウドの使用状況の分析：クラウドサービスを使用しているビジネス部門、アプリケーション、サービスの詳細や、それぞれがどのくらいの量を使用しているのかを迅速に把握できます。
- データの自動収集：VMware vSphere® やパブリッククラウドから迅速にデータを収集し、仮想インフラストラクチャコストと比較します。

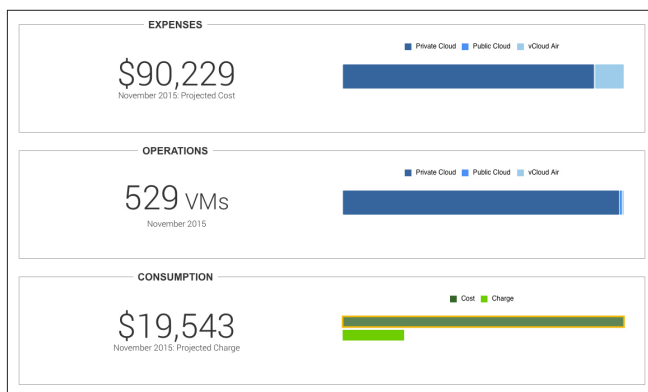


図 1: クラウド ビジネス管理の概要

## ハイブリッド クラウド環境の管理

IDC 社の調査<sup>1</sup>によると、企業の IT 部門の 65 % 以上が 2016 年までにハイブリッド クラウド テクノロジーの導入を予定しており、IT 部門を取り巻く変化が劇的に加速しています。また、2017 年までに、新規アプリケーションの 35 % がクラウド対応型の継続的デリバリーと DevOps ライフサイクルを活用するようになり、新機能やビジネスの革新が迅速に展開されることが見込まれています。

VMware は、インフラストラクチャ チームや運用チームが、プライベート、パブリック、ハイブリッドを問わず、あらゆるクラウド環境を対象に、クラウド ビジネスの自動管理機能を通じて効率的なコスト算出、使用量の測定、比較、および計画を行えるよう支援しており、vRealize Business for Cloud は、クラウド管理の導入を容易にし、メリット実現までの時間を短縮します。

このソリューションは、VMware の他製品ともネイティブに連携し、プライベート、仮想、およびクラウド インフラストラクチャのサービス コストと使用量のメトリックを提供します。IT 部門は、vRealize Business for Cloud を導入することで、サービス カタログに含めるサービス価格の自動的な算出や、プライベート クラウドサービスのコストとパブリック クラウド サービスのコストの比較を行うことができます。

## クラウドのコスト、使用量、比較、計画に関するデータへの迅速なアクセス

多くの IT 部門は、あらゆる変革を継続的に管理するように求められています。それらは、プロビジョニング済みの物理ハードウェアからオンデマンド型の仮想サービス、単一のプロバイダからマルチベンダーのソーシング、そしてクラウドの併用からクラウド ファーストなど多岐にわたります。ところが、IT 部門の多くは、1つ1つの決定が特定のビジネス部門や会社全体にどのような影響を及ぼすかを包括的に確認できないまま、クラウド コンピューティングを押し進めています。vRealize Business for Cloud は、ビジネスに関する効果的な意思決定に必要な詳細情報を視覚的に提供する製品です。

## 効率性の把握：単一のダッシュボードでクラウドのコストを算出

vRealize Business for Cloud では、プライベートおよびパブリッククラウドのコストを単一のダッシュボードで把握でき、コスト要因やコスト効率が変わりやすくシンプルに表示されます。IT 部門は、オンプレミスの vSphere 仮想インフラストラクチャのコストを自動的にかつ継続的に追跡できるほか、VMware vCloud® Air™、Amazon Web Services、Microsoft Azure などのパブリック クラウドのさまざまなプロバイダやアカウントに対してビジネス部門がどのくらい支出しているのかを容易に算出できます。導入の際には、vRealize Business for Cloud から仮想インフラストラクチャ コストのリファレンス ライブラリを参照可能です。

1 IDC FutureScape : Worldwide Cloud 2015 Predictions 「IDC Reveals Cloud Predictions for 2015」(2014 年 12 月 18 日)

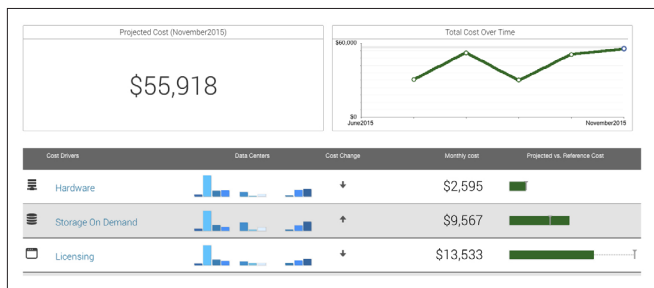


図 2：コストとコスト要因の詳細な分析

### 使用量とメリットの算出：クラウドの使用状況とロールベースのショーバック

vRealize Business for Cloud を利用して、どのビジネス部門、アプリケーション、またはサービスがエンタープライズ インフラストラクチャをどのくらい使用しているかを迅速に把握できるほか、ロールベースのオンライン アクセス レポートを通じて、クラウド サービスの割り当ての明細やショーバック レポートを特定のビジネス部門とセキュアに共有できます。このソリューションには、月ごとの請求額予想や予算追跡の機能もあるため、ビジネス全体の透明性が大幅に向上します。

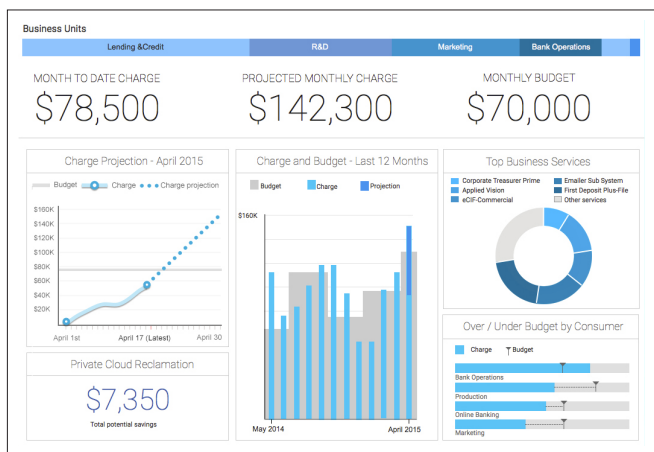


図 3：ビジネス部門のショーバック

### 選択枝の評価：クラウド比較

vRealize Business for Cloud では、ワークロードの現状と計画にまつわるコストを自動的に比較できます。これにより、IT 部門はクラウドの選択枝を迅速に評価して、意思決定の質を高めることができます。また、パブリック クラウドとプライベート クラウドを比較するうえでは、パブリック クラウドの最新の価格リストを定期的に確認し、カスタムのパブリック クラウド価格表をアップロードして、パブリック クラウド コストに対する仮想マシン コストの現状と計画を評価できます。より正確な情報を基に、クラウド購入の決定をスマートに行うことができます。

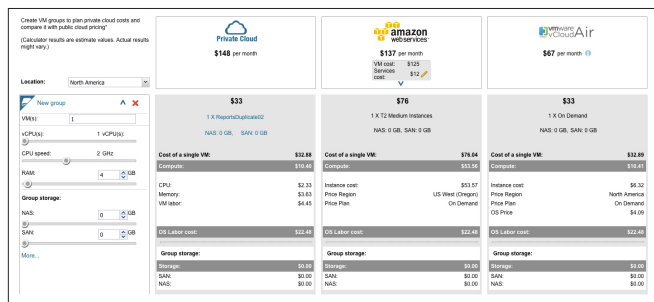


図 4：クラウドの選択枝のコスト比較

### リソースの最適化：クラウドの計画と再利用

vRealize Business for Cloud を活用することで、IT 部門は、データセンターの使用済みおよび未使用のキャパシティ量を確認し、コストを視覚的に把握できます。また、新規ワークロードを追加した場合の未使用キャパシティに対する影響とコストも自動的に算出可能です。さらに、未使用のキャパシティの再利用による節約可能なコストを算出できるため、リソースを効率的に管理できます。

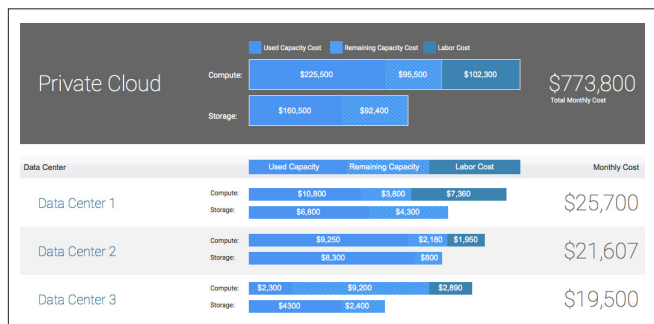


図 5：キャパシティの視覚化

## 詳細情報

vRealize Business for Cloud は、VMware vRealize Suite に含まれるコンポーネントの1つとして提供されます。VMware vRealize Suite は、ハイブリッド クラウド向けに開発された包括的なクラウド管理プラットフォームで、IT の管理性を維持しながら、インフラストラクチャやアプリケーションを迅速に展開および管理できます。

vRealize Business for Cloud の詳細情報や導入事例については、製品 Web サイトを参照してください。

<http://www.vmware.com/jp/products/vrealize-business-for-cloud/>

